

NGOトーク
理事が聞く

ル・スリール(笑顔)を 広げるために

(特活)ル・スリール・ジャポン 理事長 石田 純哉さん &
(特活)名古屋NGOセンター 理事 伊藤 幸慶

団体を立ち上げた理由

伊藤 ル・スリール・ジャポンさんは立ち上がったばかりだそうですね。

石田 私は大学卒業後、公立高校、専門学校で数学の教員をしました。その後大学院でアフリカの教育政策を学び、青年海外協力隊に参加しました。西アフリカの海岸沿いの国、ガーナの最北西端の郡で、水、公衆衛生に関わる活動を行いました。ガーナの北部は気候が厳しい地域ですが、そこでの生活、活動を通じて、さらに北のより環境の厳しい内陸の国々に関心をもつようになりました。その地域には人間開発指数が下位の国々が多くあります。

伊藤 聞きなれない指数ですね。

石田 平均寿命、就学年数、一人あたり国民総所得などをとくに国連が定める開発指標の一つです。例えば2015年の発表ではマリ(179位)、ブルキナファソ(183位)、ニジェール(188位:最下位)と内陸のフランス語国が下位に並んでいます。当時は状況は同様であったため、この地域で社会開発、教育開発に取り組みたいと考えるようになり、帰国後、フランス語を学ぶためフランスに11か月留学しました。

しかし、フランス語国での仕事が英語国と比べ少ないこと、また、あったとしてもそれに見合う自身の能力が不足していたこともあり、ケニアでコミュニティ開発を専門にしているNGOで教育、保健事業などの活動に2年、同じケニアのJICAのプロジェクトに1年半弱関わりました。そして、西アフリカの内陸フランス語国で教育支援活動を行いたいという気持ちから自ら団体を立ち上げるという決心をしました。

2015年5月に任意団体として立ち上げ、そして、今年の2月1日に法人格を取得しました。

伊藤 その地域で活動するNGOが多くないので自分で立ち上げたのはすごいですね。どうしてブルキナファソというあまりなじみがない国にしたのでしょうか。

石田 青年海外協力隊での活動地と国境を接した国であり、気候、民族に馴染みがあること、また、他の国の治安状況が悪く、渡航が制限されていることから最初の活動国としてブルキナファソを選択しました。

ブルキナファソの学校の現状

伊藤 名古屋NGOセンターの加盟団体はアジアで活動している団体が多いので、アフリカのことを知ってもらおうと思い、今号をアフリカ特集としました。アフリカというとちょっと縁遠く感じる加盟団体の方も多そうですね。

石田 距離的な要因があるのかもしれませんが、ブルキナファソまでの飛行機代は航空会社、時期によっては往復14万円程度のときもあります。

伊藤 それほど高くないですね。アフリカはヨーロッパのNGOがカバーしているようなイメージがあるのですが。

石田 西アフリカでは、フランスやベルギーなどのNGOが活動していますが、カバーされていない地域

もあります。

伊藤 教育の現状はどうか。

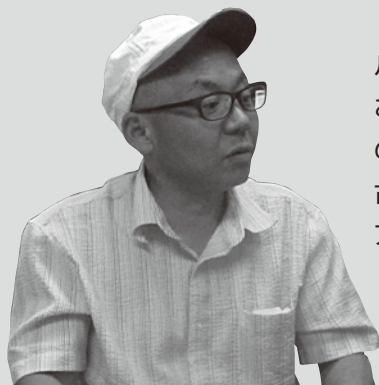
石田 中学校までは無償なのですが、小学校(6年制)を卒業するのは約60%、中学校(4年制)を卒業するのは約25%です。様々な要因が絡んでいますが、教育の質と量を維持するための、学習環境の不備も背景にあります。

伊藤 そこでル・スリールさんが支援しているわけですね。

石田 まずはできることからということで、学習教材を児童向けに配布しています。自学自習できる教材の効果を先生、児童に実感してもらい、その後、教材の使用方法、教材の作成などの研修の開催、作成された教材のデータ化などの支援を検討しています。活動する南西州ポニ県の小学校では学習教材は先生しか持っていない場合が多く、問いを黒板に写し児童に提示しています。「3+4=」などと書くわけです。低学年の児童はノートを使用していないことが多く、黒板上の問いの答えを、児童個々がもつ小さな黒板に書いて提示します。計算などのしっかりと練習が必要な学習においては、とても、十分な学習ができ



わらぶきの校舎



ル・スリールとはフランス語で「笑顔」という意味だそうです。お話をうかがった事務所は「ニカラグアの会」さんや「世界の子どもたちを貧困から守る会」さん、「ペシャワール会名古屋」さんと同じ嶋田ビル。机を一つずつ借りて部屋をシェアリングしています。

いとう ゆきよし
伊藤 幸慶



いしだ じゅんや
石田 純哉さん

人間開発指数 下位10か国



ているようには思えません。

伊藤 日本では信じられない環境ですね。

石田 写真のようなわらぶきの教室がまだ残っています。小学校には3つの教室があるタイプと6つの教室があるタイプがあります。3つの教室しかないタイプの学校では、2学年を1つの教室で1人の先生が教えています。例えば、1年生に教えているとき2年生は自習、2年生に教えているとき1年生は自習となります。自習といっても数字を読み上げるというようなことし

かできていない場合があります。

日本でも計算が苦手、算数、数学が苦手、嫌いになってしまう子どもがたくさんいます。日本で使用する計算ドリルのような学習教材があれば自習時間をうまく活用することができると思います。また教材は渡しっぱなしではなく管理してもらい必要があります。ただ配布するだけの支援で

はなく、教材を取り扱う能力を高めるような支援にしたいです。

伊藤 現在10近くの加盟団体の皆さんが途上国の教育支援をしています。いまのお話は元教員の方の実体験なので参考になりそうですね。

国内の活動は

伊藤 国内ではどのような活動をしていますか。

石田 まだ私個人が引き受けている段階ですが、学校、勉強会などで講演をしています。最初はこれまでのアフリカの活動を紹介していましたが、最近は西アフリカの状況に加え、途上国という言葉そのものについての説明をしています。日本では、アフリカというと東アフリ

カのケニアとかタンザニアの動物がいるような国の紹介が多く、西アフリカの報道はほとんどありません。まずは西アフリカのことを知ってもらいたいです。

伊藤 当面の収入などは？

石田 現在は組織の基盤作り、活動形成を行っていますが、来年からは助成金を活用し活動の幅を広げていきたいです。そのための活動形成として、具体的な情報はメールでのやりとりだけでなく、直接、現地を確認、取得する必要があります。さらに、私たちの活動に対して少しでも賛同し、ご支援していただけるよう努めてまいります。

伊藤 名古屋NGOセンターの資源も活用してください。

石田 NGOセンターさんの主催する研修への参加、イベントへの出展など、いつも刺激を受けています。9月～12月にかけて国内イベントを毎月行うので、ボランティアの募集で「中部NGO情報ひろば」を活用させていただこうと考えています。6月、9月は地域活性化を目指される一般企業様に私たちの異文化体験イベントを利用いただきました(11月も開催予定)。10月はワールド・コラボ・フェスタ(23日(日)のみ)に出展する予定です。

伊藤 今日はどうもありがとうございました。

(担当:丹羽)



教室での子どもたち

団体概要

特定非営利活動法人 ル・スリール・ジャポン

〒450-0001 名古屋市中村区那古野1丁目
44番17号 嶋田ビル302号
TEL:050-5809-8120
Email: info@ojvs.or.jp
URL:http://ojvs.or.jp
facebook:le.sourire.japon.ojvs